

最近話題となっている病害虫

沖縄県病害虫防除技術センター 予察防除総括 金城 邦夫

アフリカシロナヨトウ

学名：*Spodoptera exempta* (Walker)

英名：African armyworm

■はじめに

アフリカシロナヨトウ *Spodoptera exempta* (Walker) は、チョウ目ヤガ科 (Noctuidae) ヨトウガ亜科 (Hadeninae) に属し、アフリカからアジアの熱帯地域、オーストラリア、ハワイを含む太平洋の島々に分布する。本種を含む *Spodoptera* 属は、幼虫が多食性で、多くの野菜類、穀類、牧草類を加害する経済的に重要な害虫を含んでいる。国内では 8 種が分布し、その内「農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版」(日本応用動物昆虫学会, 2006) には 4 種が掲載されているが、本種は含まれていない。国内における本種の確認は、これまで沖縄県や静岡県、熊本県、東京都(小笠原)などで成虫の採集記録がある程度の希少種であった。2010 年 8 月、沖縄県多良間島と西表島のイネ科牧草とサトウキビで初の幼虫被害が確認され(図 1)、その後鹿児島県喜界島においても同様な発生被害が見られた。さらに、2019 年 8 月に沖縄本島北部のイネ科牧草地で発生が確認された。



図 1 サトウキビにおける発生状況

いずれの発生年・地域でも、幼虫の発生密度の高密度化に伴って群生相の発生が確認され(図 2)、被害の拡大が危惧された。しかし、いずれの場合でも発生確認数ヶ月後には自然終息している。



図 2 老齢幼虫 孤独相(左)、群生相(右)
(体長はいずれも 4 ~ 5cm)

■発生・被害

アフリカでは非常に著名な害虫で、イネ科のサトウキビ、イネ、トウモロコシ、ソルガムや、マメ科のササゲなどの作物を加害することが報告されている。また、6 ~ 7 年に一度、大発生し、年によっては東南アジアまで移動するとされる。沖縄県内ではイネ科牧草(ギニアグラス、ジャイアントスターグラス、ローズグラス、ネピアグラス)とサトウキビでの被害が確認されている。

主な被害は、幼虫による食害で、特に終齢幼虫の食害量は大きい。本種が多発したほ場では、植物の葉を中肋だけ残して食べ尽くした後、armyworm(軍隊芋虫)の名のとおり大量の幼虫が地面を這って移動する場合もある(図 3)。



図 3 道路を移動する幼虫

■防除対策

被害を最小限に食い止めるためには、ほ場及び周辺の見回りを行い、幼虫の早期発見・早期防除に努める。イネ科牧草地では、早期刈り取りが有効である。

参考文献：

- 鹿児島県病害虫防除所 平成 22 年度特殊報第 2 号.
- 上里ら (2011) 琉球列島におけるアフリカシロナヨトウの大発生 植物防疫 65(6)365-370.
- 日本応用動物昆虫学会 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版. 日本植物防疫協会 東京: 387pp.
- 沖縄県病害虫防除技術センター 平成 22 年度特殊報第 1 号.
- 沖縄県病害虫防除技術センター 平成 31 年度注意報第 1 号.
- 吉松、上里 (2011) 日本で初めて害虫化したアフリカシロナヨトウとこれまでの成虫採集記録 蛾類通信 No.260 243-245.